



平成 22 年 11 月 10 日

各 位

会社名 小倉クラッチ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 小倉 康宏  
 (JASDAQ・コード 6408)  
 問合せ先 取締役常務執行役員 河内 正美  
 電 話 0277-54-7101

## 平成 23 年 3 月期 第 2 四半期累計期間における業績予想値と決算値との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の業績予想値と本日発表の決算値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 23 年 3 月期通期業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

### 記

平成 23 年 3 月期 第 2 四半期累計期間連結業績予想値と実績との差異  
 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	18,490	310	260	170	11.33
今回発表予想 (B)	19,749	677	360	370	24.68
差 額 ( B - A )	1,259	367	100	200	
差 額 率 ( % )	6.8	118.6	38.7	117.7	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	13,931	△ 1,202	△ 994	△ 1,155	△ 77.02

平成 23 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正  
 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	35,800	570	470	310	20.67
今回発表予想 (B)	38,100	960	500	420	28.01
増 減 額 ( B - A )	2,300	390	30	110	
増 減 率 ( % )	6.4	68.4	6.4	35.5	
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月 期)	31,043	△ 1,227	△ 995	△ 1,291	△ 86.13

平成 23 年 3 月期 第 2 四半期累計期間個別業績予想数値と実績との差異  
 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	13,220	130	180	160	10.67
今回発表予想 (B)	14,783	310	165	238	15.91
差 額 ( B - A )	1,563	180	△ 14	78	
差 額 率 ( % )	11.8	138.8	△ 8.0	49.1	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	10,177	△ 531	△ 661	△ 752	△ 50.18

(注) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別業績は開示しておりません。

平成 23 年 3 月期 通期個別業績予想数値の修正

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	26,440	260	270	230	15.33
今回発表予想 (B)	29,240	430	225	315	21.01
増減額 (B - A)	2,800	170	△ 45	85	
増減率 (%)	10.6	65.4	△ 16.7	37.0	
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	24,054	△ 543	△ 660	△ 1,144	△ 76.29

差異及び修正の理由

1. 連結業績

第 2 四半期累計期間の売上高につきましては、当社製品の主要需要先である自動車業界において、国内については政府のエコカー補助金の期間延長による効果により、海外については中国を始めとするアジアの新興国市場が好調を維持・拡大した事に加え、米国市場の回復による需要効果に支えられた事により、当初予想の 18,490 百万円を上回り 19,749 百万円となりました。

営業利益につきましては、売上高の増加と費用削減策の効果等もあり、当初予想を上回りました。

経常利益につきましては、為替差損の発生はありましたが、営業利益の増加により、当初予想を上回りました。

四半期純利益につきましては、経常利益の増加等により税金費用が増加したものの、当初予想を上回りました。

また、通期業績予想につきましては、エコカー補助金の打ち切り等により下期の自動車販売動向が不透明な状況ではありますが、第 2 四半期累計期間の業績を踏まえ、当初予想よりも売上高の増加を見込み、営業利益・経常利益・当期純利益においても前回公表予想を上回る見込みです。

2. 個別業績

第 2 四半期累計期間の個別業績につきましては、連結業績予想の修正理由と概ね同様ではありますが、個別業績における経常利益につきましては、急激な円高により為替差損が発生し、当初予想を下回りました。

通期業績予想につきましては、連結業績同様に先行きが不透明な状況ではありますが、第 2 四半期累計期間の業績を踏まえ、当初予想よりも売上高の増加を見込み、前回公表予想を上回る見込みです。

(注) 上記の業績予想等は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。

以上